

綾川町における
協会けんぽ・国保加入者の医療費と健診結果分析

～ 概 要 版 ～



全国健康保険協会 香川支部
協会けんぽ

はじめに

本分析は、健康保険のなかでも職域を対象とした全国健康保険協会（協会けんぽ）と地域を対象とした国民健康保険（国保）との分析を行った。本分析結果を通して、双方の医療費適正化対策の基礎的資料や今後の保健事業に活用し、保険者の壁を越えた活動のきっかけとなることを目指すものである。

今回は、モデル地区として、香川県のほぼ中央に位置する綾川町の住民を分析対象とし、協会けんぽ香川支部と香川大学真鍋芳樹教授が、綾川町の協力のもと分析を実施している。

なお、分析には双方のレセプト（医療費）情報や健診情報を用いており、分析方法およびその流れは次のとおりである。

医療費について

一般的に協会けんぽと国保との年齢構成の違い等により、協会けんぽに比べ国保の「加入者一人当たり医療費」が高いといわれている。本分析では、年齢構成要因をできるだけ少なくするために「加入者一人当たり医療費」を年齢階級別に区分し分析を行った。また、ここで使用する「加入者一人当たり医療費」とは、制度や年齢階級等のグループごとに合計した医療費を、同じ条件のグループごとの加入者数で割ったものである。

協会けんぽ、国保とも平成22年度レセプト情報を使用。

協会けんぽ、国保の加入者数は平成22年度各月の加入者数の合計を12で割ったものである。

傷病名は、複数の傷病が記載されているレセプトの場合は、主傷病を特定して分類している。

傷病情報が磁気データ化されていない手書レセプトや続紙付レセプトは、傷病別の集計の対象外となっている。

協会けんぽの情報は、協会けんぽが保有する被保険者の住所地情報に基づく。そのため、住民票上の住所とは必ずしも一致しない。

健診結果について

健診結果は性別・年齢階級別に分析を行った。なお、協会けんぽは、35～74歳の被保険者が健診対象者であるが、「70-74歳」の受診者はわずかしかないため、年齢階級を「35-39歳」「40歳代」「50歳代」「60歳代」とし、「70-74歳」を除外した。国保は40歳～74歳が健診対象者であるため、年齢階級を「40歳代」「50歳代」「60歳代」「70-74歳」とした。ただし、性別・全体の受診者の比較は、協会けんぽと国保の年齢階級を一致させるため、「40～69歳」を分析対象とした。

協会けんぽ、国保とも平成22年度健診受診結果を使用。協会けんぽは、被保険者（本人）が受診対象の生活習慣病予防健診（特定健康診査の内容を含む）、国保は、被保険者が受診対象の特定健康診査。各健診の注釈は巻末に収録している。

健診結果と医療費の関係について

健診と医療の両方を受診した者のメタボリスク等と年間医療費の関係を分析した。

協会けんぽ、国保ともに健診受診者をメタボ判定別または、健診リスク数ごとに区分し、それぞれが属する階層の一人当たり医療費を算出した。ただし、ここで使用する一人当たり医療費は、健診と医療の両方を受診した者のみを対象とし、その医療費をその人数で割ったものである。また、「医療費」での一人当たり医療費と区別するため「年間医療費」と記載している。なお、協会けんぽと国保の年齢階級を一致させるため「40歳～69歳」までを分析対象とした。

メタボ判定、メタボリスク数の注釈は、巻末に収録している。

協会けんぽ綾川町・・・協会けんぽが保有する被保険者の住所地情報で、綾川町に該当する協会けんぽ香川支部の加入者をさす。住民票上の住所とは必ずしも一致しない。

協会けんぽ香川県・・・協会けんぽ香川支部の加入者をさす。住所地情報で香川県以外の協会けんぽ香川支部の加入者も含む。

国保綾川町・・・・・・・綾川町の国保の加入者をさす。

国保香川県・・・・・・・香川県の国保の加入者をさす。

1 加入者一人当たり医療費【年間】全体・入院・入院外

協会けんぽ綾川町の一人当たり医療費（全体）は、幼少期から壮年期にかけて減少し、中高年齢期で増加する傾向は協会香川県と同様であり、50歳代で一人当たり医療費が増加しはじめています。また、50歳代以降で、協会けんぽ綾川町は協会けんぽ香川県より10,000円以上高い。

【図1-1】 入院では、30歳代と50歳代以降、入院外では、20歳代、50歳代、60歳代で、協会けんぽ綾川町は、およそ10,000円以上協会けんぽ香川県より高い。【図1-3、図1-5】

国保綾川町の一人当たり医療費（全体）は、幼少期から壮年期にかけて減少し、中高年齢期で増加する傾向は国保香川県と同様であり、40歳代で一人当たり医療費が増加しはじめています。また、40歳代、60歳代で国保綾川町は国保香川県より10,000円以上高い。【図1-2】

入院では、20歳代と40歳代で20,000円以上、国保綾川町は国保香川県より高い。【図1-4】

図1-1 加入者一人当たり医療費【年間】(全体) (協会けんぽ)

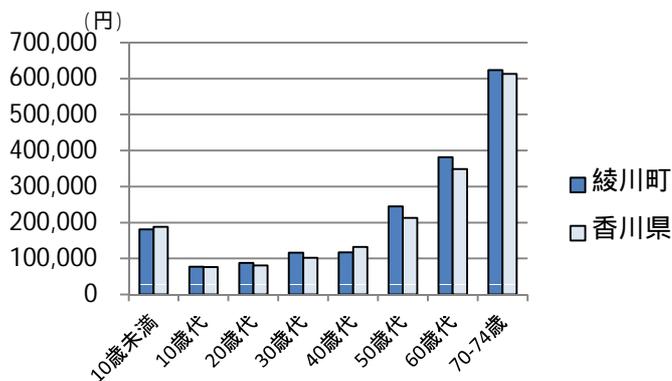


図1-2 加入者一人当たり医療費【年間】(全体) (国保)

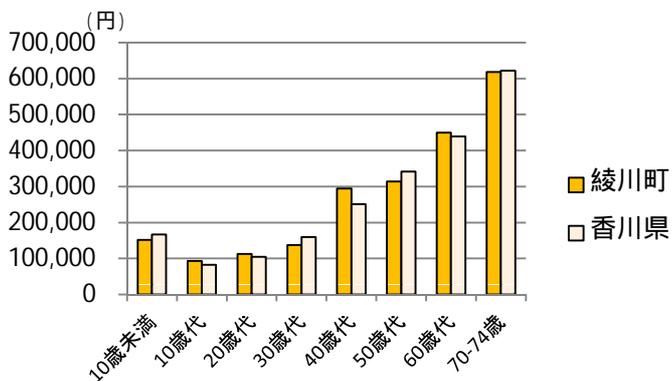


図1-3 加入者一人当たり医療費【年間】(入院) (協会けんぽ)

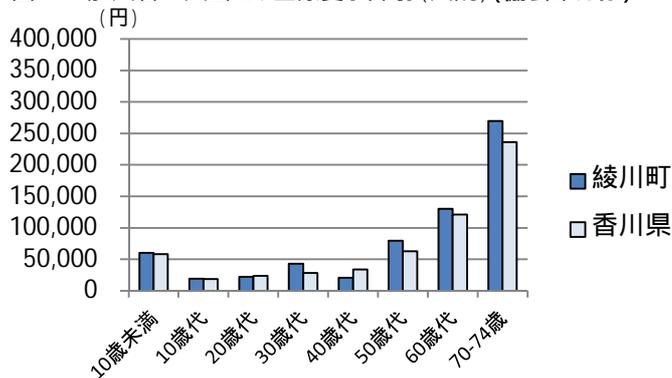


図1-4 加入者一人当たり医療費【年間】(入院) (国保)

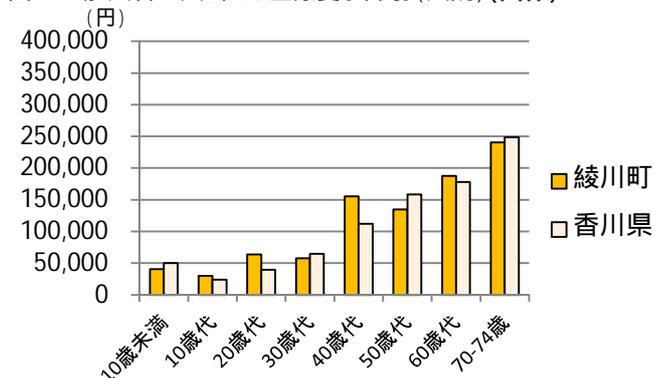


図1-5 加入者一人当たり医療費【年間】(入院外) (協会けんぽ)

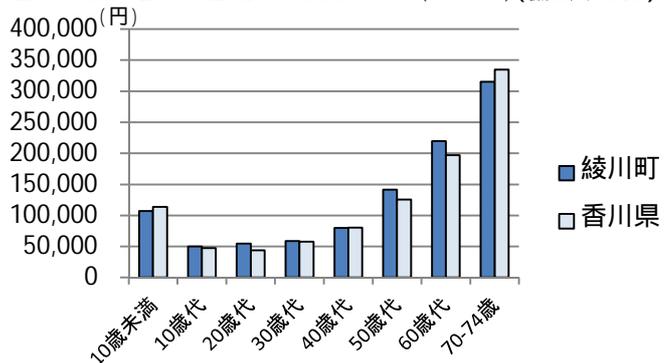
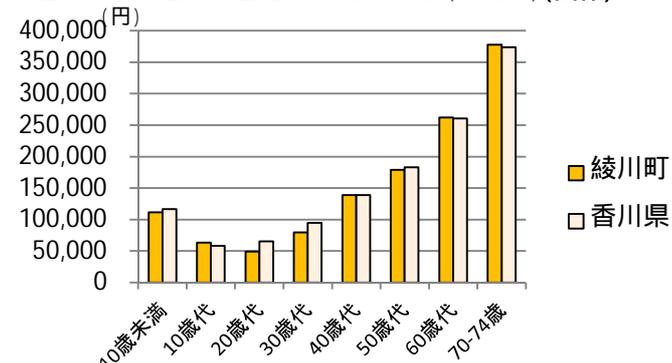


図1-6 加入者一人当たり医療費【年間】(入院外) (国保)



2 健診結果【メタボ判定】

協会けんぽ綾川町は、約3.5人に1人（27.3%）がメタボ判定による「該当群」「予備群」である。協会けんぽ綾川町の男性は年齢階級が上がるにしたがって、「該当群」の割合が高くなっている。「予備群」は10%弱～16%弱で「該当群」ほどの変化はない。協会けんぽ綾川町の女性も年齢が上がるごとに「予備群」「該当群」の割合は高くなっているが、男性に比べてその割合は低い。【図2-1】（メタボ判定については巻末を参照）

国保綾川町は、約3人に1人（31.6%）が「該当群」「予備群」である。国保綾川町でも、女性より男性の方が「該当群」「予備群」の割合が高い。また、国保綾川町の男性、女性ともに年齢階級が上がるにしたがって「該当群」の割合が高くなっている。【図2-2】

図2-1 健診結果【メタボ判定】(協会けんぽ綾川町)

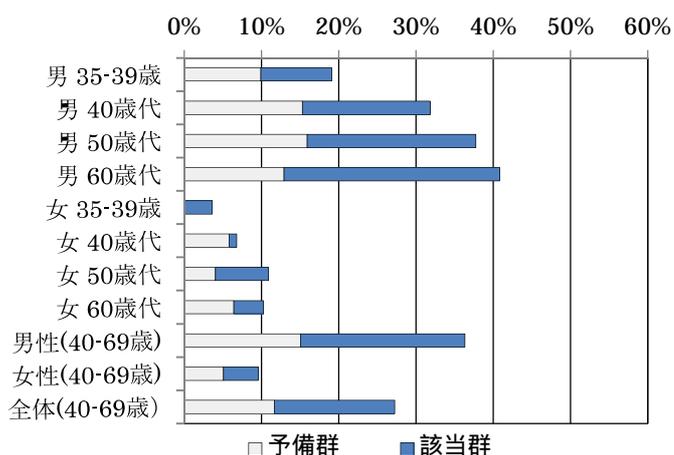


図2-2 健診結果【メタボ判定】(国保綾川町)

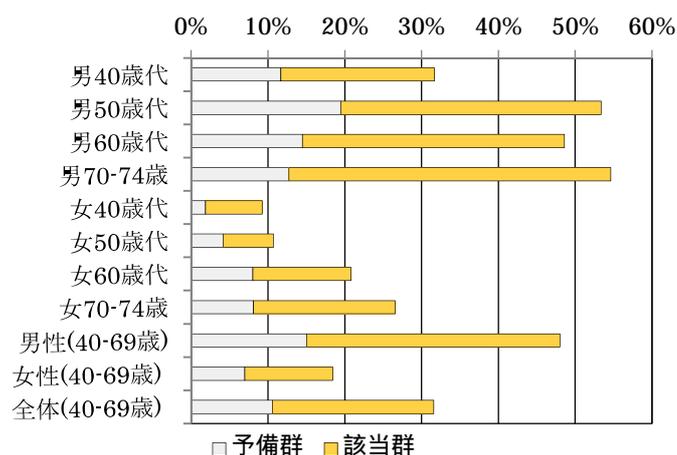


図2-3 健診結果【メタボ判定】(協会けんぽ香川県)

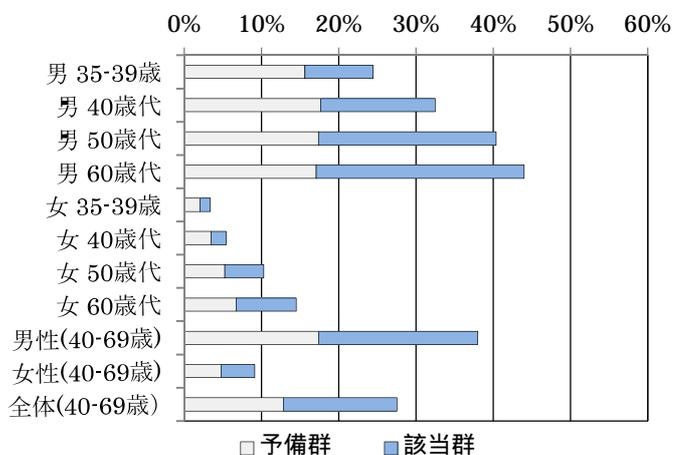
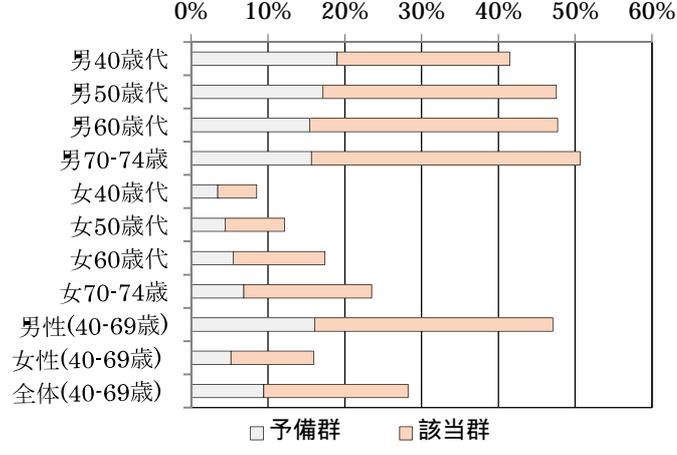


図2-4 健診結果【メタボ判定】(国保香川県)



3 健診結果と医療費の関係

ここでは、分布のゆがみの影響が比較的少ないとされる中央値に着目した。

メタボ判定別（中央値）

協会けんぽ綾川町は「該当群」と「非該当」を比較すると、およそ150,000円該当群の方が高い。

また、国保綾川町も、「該当群」と「非該当」を比較すると、およそ100,000円「該当群」の方が高い。【図3-1、図3-2】

メタボリスク数（中央値）

メタボリスク数が1個増えるごとに、年間医療費が協会けんぽ綾川町では、およそ20,000円から80,000円増加している。同様に国保綾川町でも、年間医療費がおよそ30,000円から60,000円増加している。【図3-3、図3-4】

図3-1 健診結果と医療費の関係【メタボ判定】(協会けんぽ)

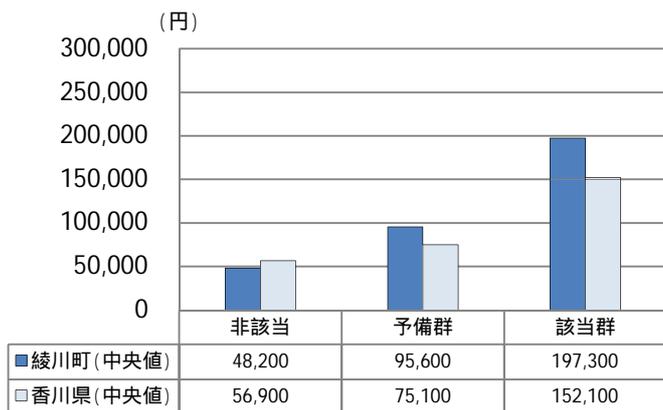


図3-2 健診結果と医療費の関係【メタボ判定】(国保)

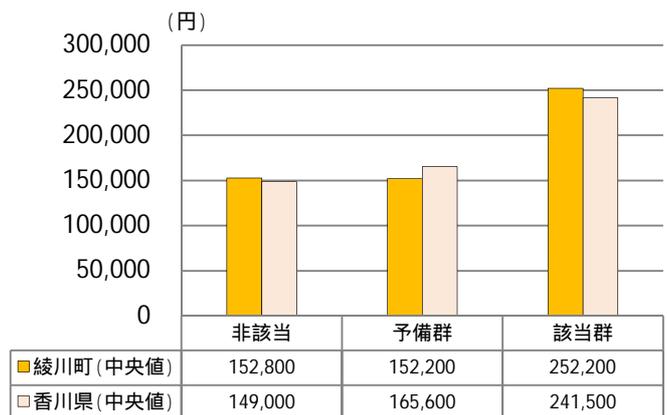


図3-3 健診結果と医療費の関係【メタボリスク数】(協会けんぽ)

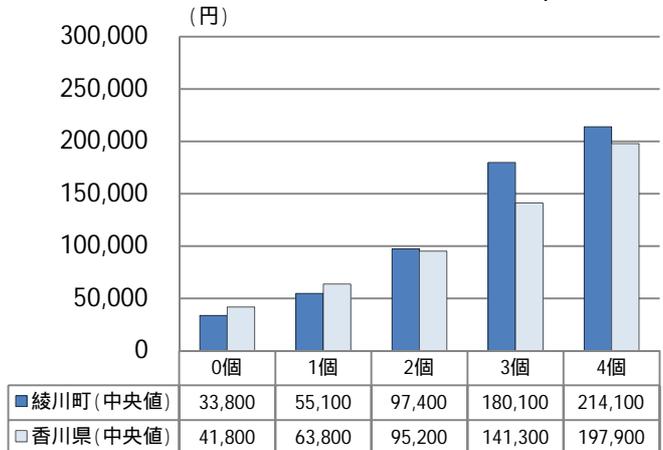
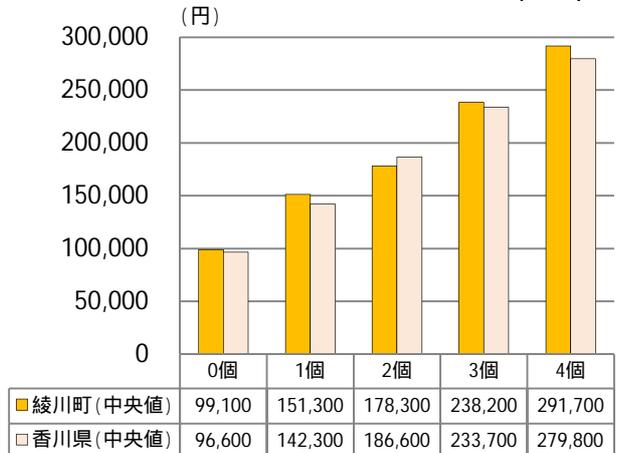


図3-4 健診結果と医療費の関係【メタボリスク数】(国保)



4 一人当たり医療費【糖尿病】と健診結果【血糖値 メタボ判定基準】

一人当たり医療費【糖尿病】

生活習慣病の中で、全国的にも香川県が高いとされている糖尿病の一人当たり医療費に着目したところ、協会けんぽ綾川町では40歳代、国保綾川町では30歳代以降で一人当たり医療費が増加する傾向がある。

協会けんぽ綾川町は60歳代以外の年齢階級で協会けんぽ香川県を上回り、国保綾川町でも30歳代、60歳代、70-74歳で国保香川県を上回っている。【図4-1、図4-2】

傷病名は、複数の傷病が記載されているレセプトの場合は、主傷病を特定して分類している。

傷病情報が磁気データ化されていない手書きレセプトや続紙付きレセプトは上記の集計の対象外となっている。

健診結果【血糖値 メタボ判定基準】

血糖値の健診結果ではメタボ判定基準以上に該当する割合が、年齢が上がるごとに高くなっている。また、協会けんぽ綾川町では、すべての年齢階級で協会けんぽ香川県を、国保綾川町では、ほぼ全ての年齢階級で国保香川県を上回っている。【図4-3、図4-4】

図4-1 一人当たり医療費【糖尿病】(協会けんぽ)

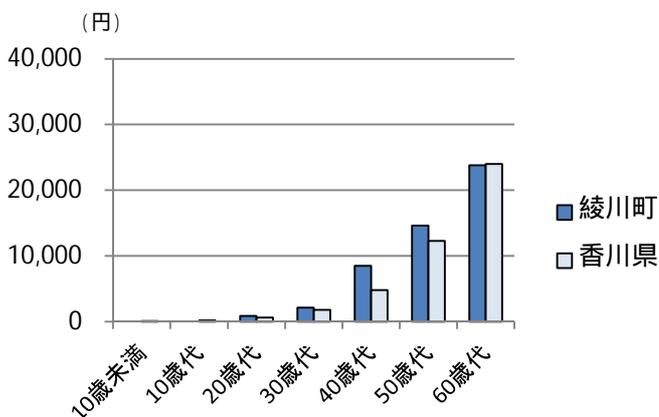


図4-2 一人当たり医療費【糖尿病】(国保)

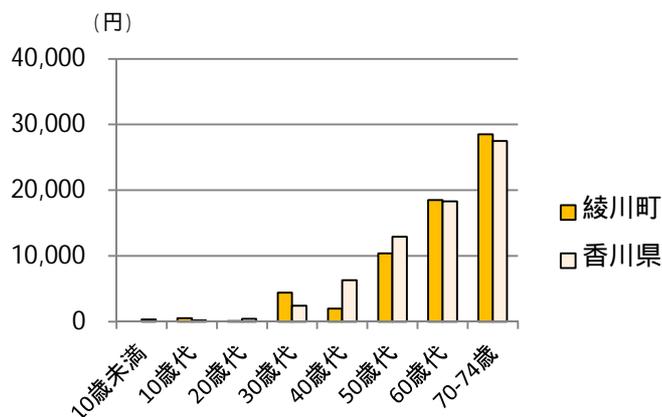


図4-3 健診結果【血糖値メタボ判定】(協会けんぽ)
(メタボ判定基準以上の割合)

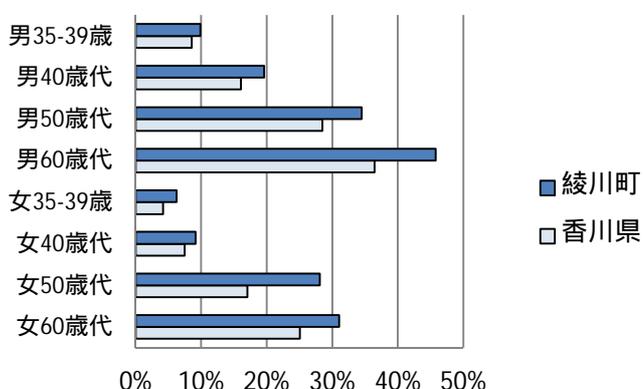
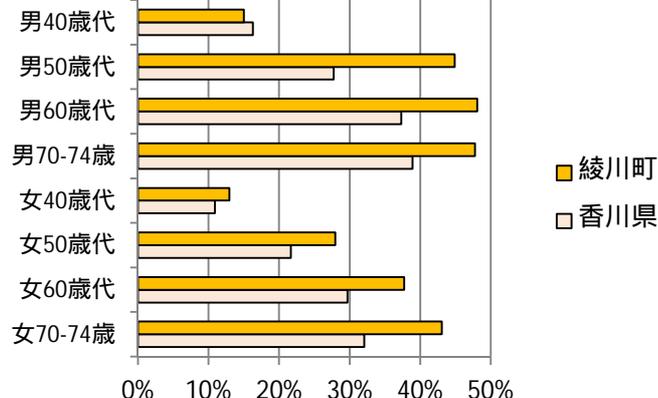


図4-4 健診結果【血糖値 メタボ判定基準】(国保)
(メタボ判定基準以上の割合)



【血糖値メタボ基準】空腹時血糖値110mg/dl未満
あるいはHbA1c5.5%未満(JDS値)。

まとめと今後の展望

▶綾川町の一人当たり医療費は、協会けんぽは50歳代、国保は40歳代で増加し始める

綾川町の一人当たり医療費は、香川県の傾向と同じように協会けんぽ・国保ともに幼少期から壮年期にかけて減少し、中高年期で増加する傾向である。その中で、特に協会けんぽは50歳代で、国保は40歳代から医療費が増加し始めている。

▶綾川町の健診結果は加齢にしたがってメタボ「該当群」が増加する

健診結果から「腹囲」「血圧」「代謝」「脂質」の4つのメタボリスクに基づきメタボ判定を行った結果、綾川町の協会けんぽ・国保ともに香川県の傾向と同じように、メタボ「該当群」の割合が、加齢とともに増加する傾向である。(メタボリスク、メタボ判定については巻末参照)

▶メタボを改善すると年間医療費を減少させることが期待される

メタボ判定によって「該当群」「予備群」「非該当」3つに分けられたグループのなかで、医療を受診した者の一人当たり医療費「年間医療費」を見ていった結果、「該当群」と「非該当」の年間医療費の差から、「該当群」から「非該当」に改善した場合、協会けんぽ綾川町では75%程度、国保綾川町では40%程度「年間医療費」を減少させることが考えられる。

また、メタボリスク数ごとの「年間医療費」の差を見ても、メタボリスク数を1個でも減らしていくことで、年間医療費を減少させることにつながると推測される。

▶綾川町の糖尿病に着目すると、糖尿病は協会けんぽは40歳代、国保は30歳代で増加する

香川県は、全国的に見ても「糖尿病」の一人当たり医療費が高いとされている。その中でさらに、綾川町の協会けんぽ、国保の「糖尿病」一人当たり医療費は、それぞれの香川県の値と比較して、多くの年齢階級で高い傾向である。また、協会けんぽ綾川町では40歳代から、国保綾川町では30歳代から、「糖尿病」の一人当たり医療費が増加し始めている。

▶綾川町の血糖値(メタボ基準以上)の割合は香川県より高い

糖尿病と関係が深いとされる「血糖値」の健診結果でも、綾川町の協会けんぽ・国保ともに、「メタボ基準以上」の割合が、ほぼ全ての年齢階級で、それぞれの香川県の割合を上回っている。

▶綾川町は糖尿病予防対策が望まれる

このことから、綾川町では、協会けんぽ・国保どちらの加入者に対しても、血糖値(糖尿病)の対策が重要であると考えられる。まず、メタボ判定で「該当群」「予備群」と判定された方等に特定保健指導等を積極的に利用するなどして、生活習慣を改善し、血糖値をはじめとするメタボリスクを減らして(増やさない)いくことが求められる。

また、「糖尿病」の一人当たり医療費が増加し始める40歳代までの世代に対して啓蒙・啓発活動等による糖尿病予防策の実施が望まれる。

➤分析事業を通じて保険者の壁を越えた活動のきっかけに

今回の分析は、平成22年度医療費、健診結果による単年度の分析であること等から、次のステップとして、4点があげられる。1点目に複数年度を分析し、その推移を見ていくこと。2点目に年齢構造等の影響を取り除くため年齢調整を行った上で詳細な疾病構造の分析を行うこと。3点目に綾川町の住民の「血糖値」についてさらに調査・分析を行うこと。そして、4点目に、全体を通じて、単なる比較だけでなくライフステージに沿った分析を進めていくことである。

このような分析から得られる結果をもとに、協会けんぽと綾川町が協力し、保健事業等の具体的対策へ展開させていきたい。

【医療費】

(患者負担分) + (保険者負担分) 本分析では食事療養費等を除く。

【加入者一人当たり医療費】

加入者(被保険者+被扶養者)一人当たりの年間医療費。次の計算式で求められる。

$$= (\text{医療費 総額}) \div (\text{加入者数})$$

【レセプト】

患者が受けた診療について、医療機関が保険者(協会けんぽ、国保等)に請求する医療費の明細書のこと。診療報酬明細書ともいう。

【生活習慣病予防健診】

年1回の定期健診。特定健康診査の内容を含む、診察や尿・血液を採取しての検査、胸や胃のレントゲン検査など約30項目の全般的な検査を行う。対象者は、当該年度において35歳～74歳の協会けんぽ被保険者。

【特定健康診査】

メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目してこれらの病気のリスクの有無を検査し、リスクがある者の生活習慣をより望ましいものに変えていくための保健指導を受けることを目的とした健康診査。対象者は40歳～74歳の健康保険加入者。

【メタボリスク数】

本分析では、以下の4つのリスクのいずれかに該当する数。

①(腹囲リスク)内臓脂肪面積が100cm²以上、

内臓脂肪面積の検査値がない場合は、腹囲が男性で85cm以上、女性で90cm以上。

(血圧リスク)収縮期血圧130mmHg以上、または拡張期血圧85mmHg以上、または高血圧に対する薬剤治療あり。

(代謝リスク)空腹時血糖110mg/dl以上、または糖尿病に対する薬剤治療あり。空腹時血糖の検査値がない場合は、HbA1c5.5%以上(JDS値)、または糖尿病に対する薬剤治療あり。

(脂質リスク)中性脂肪150mg/dl以上、またはHDLコレステロール40mg/dl未満、または脂質異常症に対する薬剤治療あり。

【メタボ判定】

(メタボリック該当群)上記リスクの かつ ~ の内2項目以上該当。

(メタボリック予備群)上記リスクの かつ ~ の内1項目に該当。

(メタボリック非該当)該当群・予備群以外の者。

【中央値】

データを小さい順(または大きい順)に並べたときに、ちょうど真ん中に来るものの値。ただし、データが偶数個の場合は、中央に近い2つの値の平均をとる。1部の大きな数値・小さな数値が平均値に影響を与えるが、中央値は、その影響を受けにくい。

平成25年7月1日発行

「綾川町における協会けんぽ・国保加入者の医療費と健診結果分析」～概要版～

編集 全国健康保険協会香川支部・香川大学教授 真鍋芳樹

協力 綾川町

発行 全国健康保険協会香川支部

〒760-8654

香川県高松市鍛冶屋町3 香川三友ビル7階

【お問い合わせ先】
全国健康保険協会 香川支部
企画総務部企画総務グループ
電話 (087)811-0570